

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ⑦

10月検針分（主に8・9月使用分）

用途別の影響

令和2年10月の検針データを前年同月と比較すると、下表のとおりとなります。

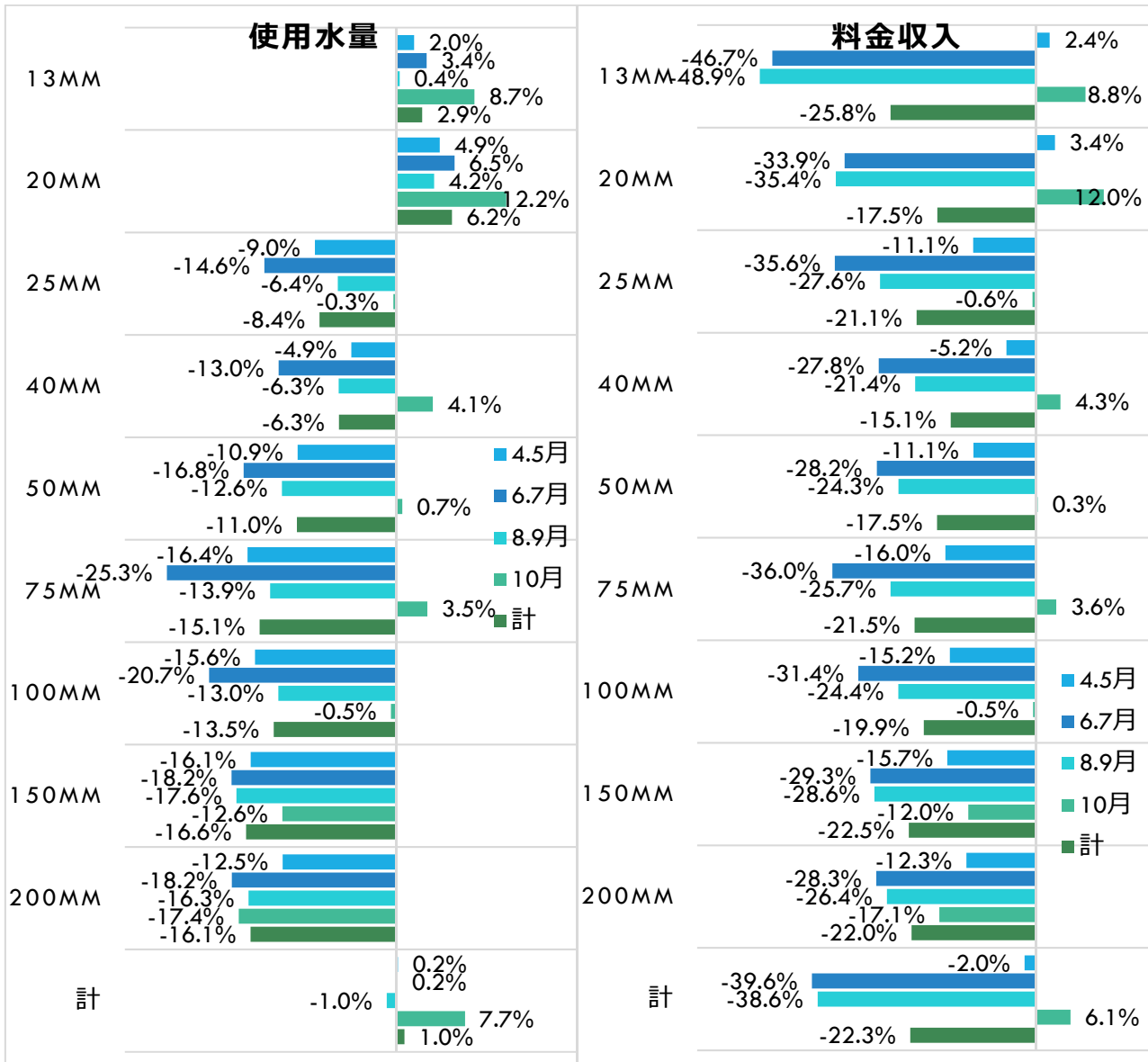
4月、5月は、主に家事用に用いられる口径13mmと20mmのメーターでは水量、金額ともに増え、主に業務用となる口径25mm以上のメーターではともに減少、6～9月は、全体的に水量、料金ともに減少となりましたが、10月分は、20mm以下、25mm以上ともに水量、金額ともに増加しました。

料金は、6月検針分から9月検針分まで実施した基本料金の全額と従量料金の10%の減額が終了し、使用水量も増えたことから、約1,190万円、約6%の増収となりました。同じ対象者の8月検針分と比較すると、使用水量は19,000m³の増加、料金は、減額措置の影響を除いても390万円の増加となりました。配水量から見ると、経済活動も徐々に活発化してきた時期であることに加え、8月の猛暑の影響が顕著に現れています。

検針年	区分	20mm以下	25mm以上	合計
R1 (H31)	水量 (m ³)	1,274,149	315,620	1,589,769
	金額(税抜き:円)	123,314,760	71,729,165	195,043,925
	供給単価(円)	96.78	227.26	122.69
R2	水量 (m ³)	1,394,273	317,196	1,711,469
	金額(税抜き:円)	134,968,640	71,988,860	206,957,500
	供給単価(円)	96.80	226.95	120.92
増減	水量 (m ³)	120,124	1,576	121,700
	増減率	9.43%	0.50%	7.66%
	金額(税抜き:円)	11,653,880	259,695	11,913,575
	増減率	9.45%	0.36%	6.11%
	供給単価(円)	0.02	△ 0.31	△ 1.76
	増減率	0.02%	△0.14%	△1.44%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 25 mmを除き 13 mmから 75mm までの口径で使用水量、料金収入ともに増加していますが、100 mm以上の口径では引き続き、使用水量、料金収入ともに減少しています。



結論

使用水量合計の変動率は、令和元年度の変動率の範囲（月△4.2%～+2.5%）を超える +7.7%となりました。主に家事用で用いられる小口径での使用水量が猛暑の影響により 9.4%も増加したことが主な要因となります。主に業務用で用いられる 25 mm以上でも一部に回復が見られますが、製造業などで用いられる大口径は、引き続き大きく減少しており、まだ予断を許さない状況であるといえます。

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ⑦

10月検針分（主に8・9月使用分）

用途別の影響

令和2年10月の検針データを前年同月と比較すると、下表のとおりとなります。

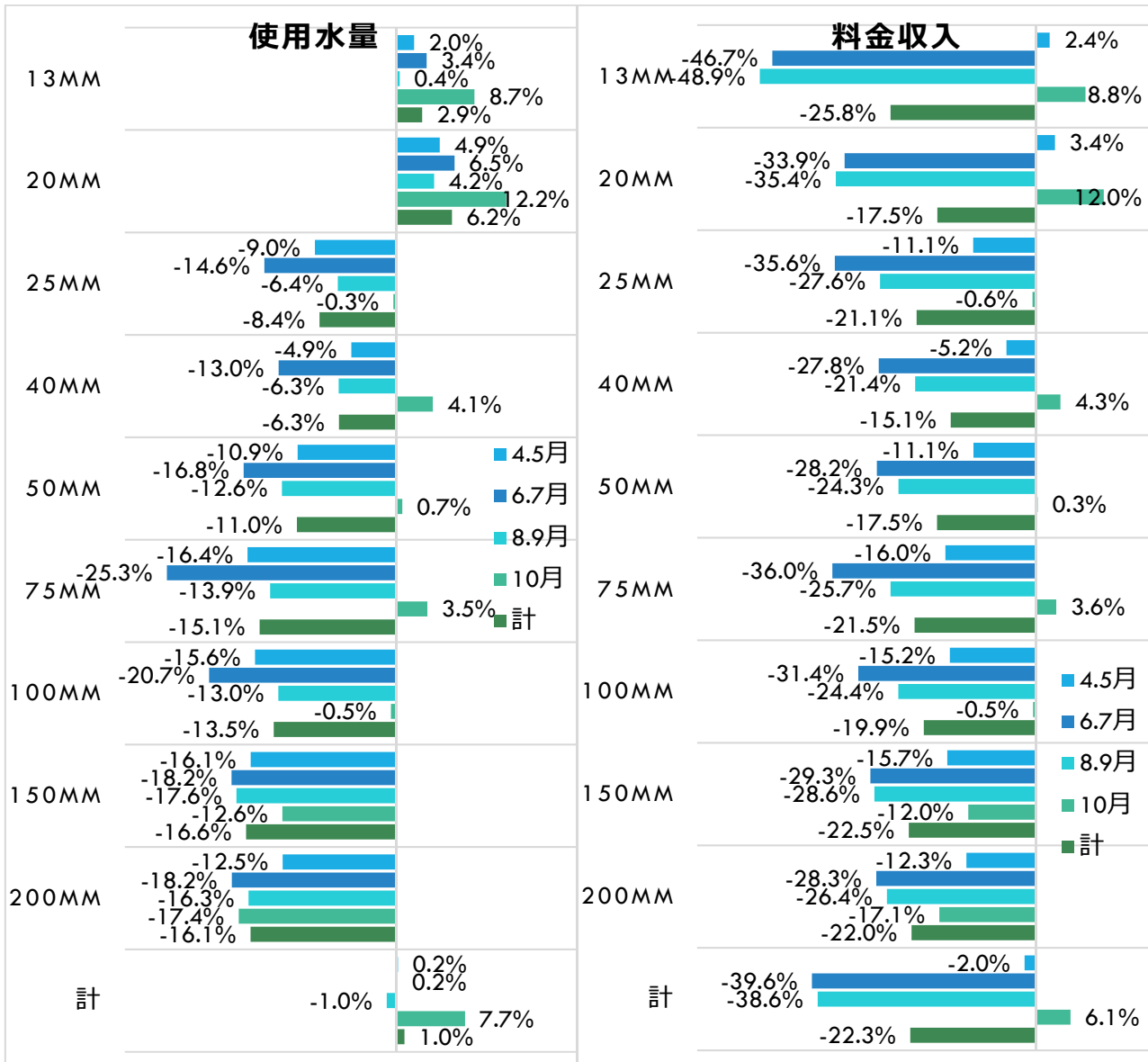
4月、5月は、主に家事用に用いられる口径13mmと20mmのメーターでは水量、金額ともに増え、主に業務用となる口径25mm以上のメーターではともに減少、6～9月は、全体的に水量、料金ともに減少となりましたが、10月分は、20mm以下、25mm以上ともに水量、金額ともに増加しました。

料金は、6月検針分から9月検針分まで実施した基本料金の全額と従量料金の10%の減額が終了し、使用水量も増えたことから、約1,190万円、約6%の増収となりました。同じ対象者の8月検針分と比較すると、使用水量は19,000m³の増加、料金は、減額措置の影響を除いても390万円の増加となりました。配水量から見ると、経済活動も徐々に活発化してきた時期であることに加え、8月の猛暑の影響が顕著に現れています。

検針年	区分	20mm以下	25mm以上	合計
R1 (H31)	水量 (m ³)	1,274,149	315,620	1,589,769
	金額(税抜き:円)	123,314,760	71,729,165	195,043,925
	供給単価(円)	96.78	227.26	122.69
R2	水量 (m ³)	1,394,273	317,196	1,711,469
	金額(税抜き:円)	134,968,640	71,988,860	206,957,500
	供給単価(円)	96.80	226.95	120.92
増減	水量 (m ³)	120,124	1,576	121,700
	増減率	9.43%	0.50%	7.66%
	金額(税抜き:円)	11,653,880	259,695	11,913,575
	増減率	9.45%	0.36%	6.11%
	供給単価(円)	0.02	△ 0.31	△ 1.76
	増減率	0.02%	△0.14%	△1.44%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 25 mmを除き 13 mmから 75mm までの口径で使用水量、料金収入ともに増加していますが、100 mm以上の口径では引き続き、使用水量、料金収入ともに減少しています。



結論

使用水量合計の変動率は、令和元年度の変動率の範囲（月△4.2%～+2.5%）を超える +7.7%となりました。主に家事用で用いられる小口径での使用水量が猛暑の影響により 9.4%も増加したことが主な要因となります。主に業務用で用いられる 25 mm以上でも一部に回復が見られますが、製造業などで用いられる大口径は、引き続き大きく減少しており、まだ予断を許さない状況であるといえます。